

一度は失敗する経験をした方が絶対いい。挑戦を続

ける力になる

語り手 山田 江美（中学二期生担任） 聞き手 河村 みのり

ーじゃあ家族や昔のことについて教えてください。

出身地は京都で、長岡の立命館中高の近くです。結婚してから滋賀へ来ました。教師になったのは、かなり年齢を重ねてから。二〇〇七年から立守で働いてるけれど、その四年前に初めて高校の教員になったんです。それまでは、違う仕事をしてたから、教員になったのは、本当に遅かったですね。

ーじゃあ先生になる前は何をしてたんですか。

大学を出て一番最初に勤めたのは、旅行会社。旅行会社を辞めてからは、英語教えたり……といっても学校とかではないけど、幼稚園の課外授業や、自宅や語学学校で英会話を教えたりしていました。いろんな世代の人と話せて楽しい経験でした。旅行関係の仕事も好きなので通訳ガイドの活動もしました。

ー英語が好き？

どちらかというと、英語って言うより、英語を通して、人と出会ったり、新しいことを知るのが好きかなあ。今、立守でも、海外との交流活動に参加する人が多いけれど、私も小さい頃から、誰かと一緒に働いたり、海外のことを学んだりするのが好きだったと思う。

文化的には日本が一番好きなんだけど、日本がベースにあって、違う文化の人と話すのが楽しいですね。英語が話せると、いろんな文化の人と関われるのがいいところ。

今、立守で教員として働いているけれど、これも「英語」が繋いでくれたこと。立守では、生徒さんはもちろんのこと、他の先生方、職員の方や講師として話をしに来てくださる方など、いろんな人との出会いがあるのが魅力的。そういう職場で働く機会を得られたのも英語のおかげです。

立守立ち上げから現在

ーこの学校で印象に残っている出来事って何かありますか。

印象に残っている出来事です。結構いろんな仕事に関わってきたから、一つに絞るのはとても難しいなあ。中学の一期生と一緒に立守での生活のスタートを切って、持ち上がりで高校にも上がりました。国際部で、留学関係の仕事もやっていたので、それぞれにいろんな思い出があります。中学の担任、高校の担任、国際部とかかわり、振り返るといろんな人の顔が浮かぶし、その時々思い出深い出来事もあって。これ一こって言われると中々……（笑）。分けて言ってもいいの？（笑）

ー全然大丈夫です（笑）。

立ち上げの時、中学は一学年しかなかった。五クラスあったけれど、一学年なので生徒の数は今と比べると、とても少なかったですね。でも、みんなとても元気で個性溢れる人ばかりだから、学校はとても賑やかだった記憶があります。先生も十人位しかいなくて。中学の教員室も学年の島が一つだけ。今はたくさんの先生がいっちゃって、本当に別

の学校のようなね。ルールも、行事もみんな一つずつ、考えながら作っていたなと思います。

行事は本当に面白かった。体育祭では、こんな競技がいんじゃないとか、経験ある先生方中心に話して決めていたし、いろんな道具も全て手作り。その時間がとても面白かったし、「学校でこんなこともできるんだ」みたいな感覚があり、楽しかったですね。

—ほんとに初期なんですね。

そうですね。吹奏楽部も今はとても大きな部だけれど、中学の創部の頃はまだ人数も少なく、メディアホールの舞台で一生懸命演奏してくれた姿が印象深いです。毎年、定期演奏会ごとに新しい企画の舞台を見せてくれたり、いろんな場面で活躍している姿を見るたびに、本当の初期の頃も思い出して「こんなふうになっっていくんだ」と感心するし、成長の大きさを実感します。また、先生たちがとても協力的で、チーム感が凄かった。

私は、先生としてのキャリアがあまりなかったから、他の先生に本当にお世話になりました。皆さん惜しみなくクラスを良くするアイデアや経験をシェアして助けてくださったので、もう感謝しかないです。私のように経験がなくてもなんとかやってこられたのは、周りの方が自然と助けてくださったから。立守では、いろんなバックグラウンドの人が、一緒に仕事しているので、一つの職場では体験できないことが学べて面白かったなと思います。

中学、高校と経験して印象に残っていることは、生徒さんの力。なんか立守の生徒さんって素直で、パワーがあるし前向きな感じの人がすごく多かった。どの学年にいても、分掌にいても、周りに応援したくなるような人がいっぱいいたなと感じます。途中で立守を離れた人も含め

て、本当にそう思ってきました。個性的な先生や生徒の皆さんとの出会いに支えられて、ここまで来ました。気づいたら二十年近くも……

(笑)。二十年で環境、例えば校舎もだいぶ変わったね(笑)。学校のシステムも変わってきたけれど、先生の一体感とか、生徒さんの素直さとかは、ずっと変わらないでいるのかなと思ってます。そこが立守のいいところですね。

二〇一〇年からは国際部を担当して留学にも関わってきましたけど、生徒さんの変化を直に感じた経験をしたと思うね。まだ、留学制度も確立していなかった時期に、「留学に行きたい」という生徒さんの夢が実現したのは嬉しかった。短期間ではあつたけれど、帰国したら、もう見えるようにたくましくなっていて。英語だけではなく、人としての成長に本当に感動しました。

印象に残っているイベントは、ミシガン研修かな。ミシガン州の高校の生徒と立守の生徒八名ずつがアメリカと日本に十日間ずつ滞在するもので、「文化と科学」の両方をテーマにした面白い研修でした。新しい企画をしていくのは楽しかったし、長期間生活を共にすることで絆が深まったと思います。もちろん課題もたくさんあったけれど、関わってくれた人たち全員にとっていい思い出になっているといいなと感じてます。今では、毎年たくさんの方が留学に行き、国際部のイベントに積極的参加してくれているよね。これからも、どんどん大きな広がりをもせて欲しいですね。

—この学校で自分自身が学んだことって何かありますか。

もうずっと学び続けていますね。学んだことはたくさんあるんだけど、いろんな人と出会って、自分とかけ離れたことも経験して、固定観念がなくなった気がします。

学んだことは、例えば、中、高の担任をしている時には、自分で考えて自分で決めるっていうのが本当に大事なんだと学んだと思います。途中で立命を離れる選択をした人もいたけれど、一人ひとりが、しっかりと自分の思いを持っていて、真剣に自分が納得のいく答えを出そうと頑張ってたんです。「正解」とか「こんなふうにしたら楽」とかではなくて、悩みながらも自分で決めていった人のことが、すごく印象に残ってる。だから、教員の思いではなく、その人の考えてるものを実現することを第一にするのが大事だと気づきましたね。初めから明確な目標がなくても、その時やっていることを、一生懸命やってたら、だんだんと自分がやりたいことがわかってくることもあると思う。途中の段階では、モヤモヤしてても、最終的に自分が「すごく良かった」と思えたら、過去にやってきたこと全てが良くなるし、そういう考え方が大事だなというのも学んだことの一つ。

未来だけじゃなく、過去も変えられると思ってます。一人で何かをするのは難しくて、やっぱり、みんな得意分野が違うし、お互いのいい所を大切にして、活かしていくとチームがうまくいくことも実感しました。これも大きな学びです。みんなの持っているパワーが、いい方向に向いたら、凄いいことができるよね。私自身もいろんな人に助けてもらったので、ありがたいですね。

一人と今まで関わったりしてきて、先生とかにもなって、今までの人生で大事にしてきた価値観みたいなものがありますか。

自分の心の持ち方が大切ということ。何でも、良いとか悪いとかないと思うんですよ。例えば、入試に合格したとか、落ちたとかも、それが良いとか悪いとかじゃなくて、自分がどう思うかだと思う。結果が良いとか悪いとか決めるのは自分だと思っから。良いところばかり見よう

とは思わないけども、いろんな見方、考え方ができると知っているのが大事。行き詰まったら、もしかしたら、違う見方があるじゃないかと考えてみる。私もそう考えるようにしてきたし、考えられるようになってきた。「絶対こうじゃないとダメ」というよりは、これがベストになるようにするにはどうしたら良いかって考えてみるといいよね。自分だけでなく周りの人も良かったなとか嬉しいなと思えるようにしたいですよね。立守って好きなこと見つけたらどんどん進んでける学校だと思う。「こういう人じゃないとダメ」ということもないし、自由だしね。そういう所が立守の良いところ。だからその人の大切にしたいことは尊重したいと思ってます。

他に大切にしていることは、感謝の気持ち。立守で出会った皆さんには本当に感謝しています。関わりの中では、知らないうちにわざとじゃないけど傷つけたこともあるだろうし、いい関係が築けなかった人もいると思うけれど、私は出会えてよかったと思っていて、皆さんに「ありがとう」って思います(笑)。

「縁」も大切だと思ってますね。この学校で働くようになったのも、偶然が重なって、本当に「縁」の力を感じてます。まさか教員になるとは、二十代の前半の頃には、想像もしてなかった。全く考えていなかったけれど、今思うと、自分が一番やりたかったことに一番近い。英語に関われたこと、子供好きだから子供たちに囲まれて過ごせること。もちろん、皆さんは子供じゃないけど、成長期に一緒にいることができるのは、とても嬉しいことです。交流活動や新しいことを知るのも好きなので、結局自分の好きなことに全部関わっています。なんかとつても恵まれてるなって思います。だから縁って面白い。みんなも好きなことをず

つと心に描いていたら、縁に導かれて最後は自分の願い通りになるんじゃないかと思っています。

十代の生き方

—やっぱり自分の高校時代と違いますか。

全然違いますね。私の高校時代は人生の中で一番暗かったと思う。結構「こうあるべきだ」とか「こんなことしたらダメ」とか、誰も言っていないけど勝手に自分で決めつけて、「良い子」でやってきたから。そんなにハチャメチャなこともしなかった。でも生きるってそうじゃないと思うになった。そう気づいたのは遅くて、二十代後半だったと思う。それくらいから、英語ももう一度本気で勉強したいと思ったし、通訳ガイドになりたいなって思ってた勉強を始めた。中高の頃は「勉強」と思ってたけど、成績や人からの評価から解放されて、学ぶ面白さを知ったなって思う。楽しくないことを楽しく思えとは思わないし、そんなポジティブさは持っていないけれど、「楽しみたい、面白がりたい」とは思ってる。どうせやるなら。楽しんだほうがいいと思わへん？

—思います。

さっき言ったように、いろんな見方があるから、あんまり決めるのは良くないと思う。みんなも、誰も強制してないことや固定概念に、自分で囚われないで欲しいと思う。立守の生徒さんには、自分が好きって思ったことに向かって、まっすぐ進んでくれると嬉しい。中学でも高校でもたくさん生徒さんを見てきたけど、みんなパワーがあって凄いの（笑）、きっと面白いことをやってくれると思います。

自分の高校時代と比べると、立守の人は一人一人、自分の意志で動ける人が多いので、面白くなって思ってます。最近、みんなと年齢差は

感じるけど、活躍を見ていて私は楽しいし、一緒にいられることが嬉しいなと感じます。今日ね、「聞き書き」があると思って、今までのことを思い出すと本当に多くの人の顔が次々と浮かんできて。それぞれにいろいろな中高時代があったと思うし、同じ時間を過ごせて良かった。そう思うと、立守でいい経験させてもらったなと思いますね。時間が長すぎて、一つのことに絞るのは難しいけれどね（笑）。でも、今いる立守の人たちも力があるし、立守これからも続いてくので、みんなも学校もどんなふうに変わっていくのか見たいし、楽しみ。これから二十年経った時の姿とかね。二十年後って想像できる？

—えー三十六とかですよ。

うん。ちょうど働き盛りね。その頃「あーあの時あんな経験できて良かったな」と振り返るのではないかな。

—じゃあ人生で一番苦労した出来事何がありますか。

苦労したこと……。やっぱり高校時代かな。苦労というか、しんどい思いをしたのは、自分の高校時代で、あんまり楽しくなかった。周りからは楽しそうに見えたかもしれないけれど、自分の中ではそう感じていなかった。さっき話したけれど、「こうしなアカン」とか「やるべきだ」ということに縛られていたので、自分の人生を生きていない気がして辛かった。

でも大学で、「あ、そうじゃないんだ」って気づいてからは、楽になったから、早く悩んどいた方がいいと思う（笑）。大人になってから悩むのって大変だしね。中学、高校の時にすごく考えたり、しんどい思いしていたら、後からとても楽しめると思う（笑）。だから、しんどい時は、「しんどくない」なんて思わず、自分の気持ちに素直になってみるのも大切。

私も当時はたくさん心理学や生き方の本も読んで、いろんな場所にも一人で行ってみた。見た目からは普通だったけれど、心の中の葛藤はすごかったから。それを思うと、今、中高校生のみんながいろんな活動をしているのを見ると、行動力があって凄いなと思う。自分の高校時代をやり直したいのもあり、今の生徒さんの姿を見て、楽しませていただいてます(笑)。

立守では高校でいろんなタイプの人が入ってくるけど、私はそれがとっても大事だと思う。いろんな人と関わって、様々なことで悩む。そんな経験は早いほうがいい。最初にしんどい方が、絶対後で楽になると信じてる。また、ずっと楽しいだけだと、面白くない。異文化交流とか、クラス替えの直後とか最初は、距離があって、ぎこちないじゃないよね。みんなで歩み寄って楽しくなる。居心地悪さとか、知らない世界を避けないで飛び込むことが大事だと思う。留学や海外研修はそれを体験する大きな機会ですよ。最初から留学生活楽しい訳ではなく、難しいことの方が多い。そういうしんどいことをやってみようと一歩踏み出すことが大事だと思う。今、国際イベントで積極的に活動している人が多けれど、尊敬すべき点は、居心地の悪い、未知の世界に踏み出す力を持つていることですよ。

—勇気ありますもんね。

そう。私は中高時代、そんな勇気はなかったし、できたら、そんなしんどいことは避けて、居心地の良い所にずっといたかった。でも今から考えたら、早いうちに居心地の悪いところへ踏み出す経験をたくさんしておくべきだった。その方が後で大きく世界が広がるから、お勧めします(笑)。身近に機会はたくさんあるよね。海外研修でのホームステイもそうだし、使い慣れた道具を変えたり、チームが変わったりする時も

そう。慣れないと「えーもうこんな好きじゃない」ってなるけれど、それを早めに経験しておく、対処できるようにする。

先ほど、自分で選択することが大切ということにも触れたけれど、選択肢が少なかったらその中からしか選べない。いろんな体験をすることは選択肢を増やすことにつながるよね。知っていることが多くて選択肢が多いと選ぶ楽しさが出てくるけど、「私にはこれしかない」って思ったらプレッシャーもかかるしね。それに失敗するのが怖いから、慣れたものにしておこうとなる。高校時代の私がそうだった。あまり中学校のとき失敗してこなかったから、新しいことができなくて窮屈。

試合とかでも、勝ち続けていたら、負けるのが怖くなるよね。そうすると、新しい挑戦ができなくなる。だから、人生の早い時期に一度は失敗する経験をした方が絶対いい。挑戦を続ける力になる。失敗して、そこから学んで次につなげることがとても大事。居心地の悪さも体験し、きまり悪いこととか、恥ずかしいって思うことを若いうちにやっておい

た方がいいよって思います(笑)。

スポーツ選手から負けれないプレッシャーとかがあると聞くけれど、それはスポーツの世界だけではなくて、私たちも、全てが上手くいくことに慣れすぎると、それを壊せなくなるから、だから立守はいいなっている。周りに自分と違う人がいっぱいいて、一つ失敗したらいって全てが終わるのではなく、違うやり方や世界があることに気づける。いろんな人がフオーロもしてくれるしね。

中学生や高校生とか尚更そうですね。今のうちに失敗は学びだと思っただくさん挑戦してください。苦労したことの話から、失敗の勧めに変わってしまったけれど(笑)。でも、失敗から学んで、立ち直る力をつけることが、苦勞を乗り越える力になると感じます。人目を気にして

失敗できない人も多いと思います。でも、私の高校時代のしんどさっていうのは、周りを気にして思うように動けなかったこと。自分が気にしているほど、周りの人は見てないのにね（笑）。だから、迷惑をかけることとか、同じ失敗を繰り返して学ばないのはもちろん良くないけれど、技量のなさとかは気にせず、挑戦してください。私は試験でも失敗をたくさん経験しました（笑）。ガイドの資格もストレートで試験に受かった訳ではないです。でも途中で辞めたら失敗だけど、最後までやって最終的にうまくいけば、その過程の失敗は失敗じゃない。後から考えれば、あの時、簡単に成功しなくて良かったとも思える。まだ十代だから、そんな経験は少ないと思うけれど、私は歳を重ねてそれも人生の一部と思えるようになりました。皆さんも途中には挫折することもあると思うけれど、工夫して、小さな成功体験繰り返し、過程を楽しんでいけば、絶対最終的には乗り越えられると思う。私自身もそうだったし、立守の生徒さんの歩みをみてもそう実感しています。

高校生の自分、高校生のみんなへ

— 今高校生のときの自分に何か言えるなら、なんて言いますか？

今まで話してきたことと重なるけれど、これからの生き方次第で過去はどんどん変わっていくと信じてます。今、思い通りの結果がでなくても、やり続けていけば、自分の失敗と感じていることも良いことに変わっていくはず。安心してこの立守で挑戦してください（笑）。立守ではそれができるはず。高校生のうちに、「居心地の悪い」ところへ踏み出す経験をして、その後の世界を広げてください。そして、周りの人との繋がりが大切にして欲しい。縁あってこの立守で出会った仲間だし、他の人と何かをやる楽しさを味わえるのは学校の魅力です。自分の

力ではコントロールできないこともあります。どんな環境でも受け入れて、面白がりながら取り組んで欲しいですね。自分が楽しんでやることは絶対いい事に繋がるし、そうやって頑張ってもらったら最終的には何でも上手いく。今までの卒業生を見てそう思います（笑）。自信持って挑戦してね。応援してます。

— なるほど。では、今日はお時間いただきありがとうございます。

色々勉強になりました。

こちらこそ貴重な機会をありがとうございました。

【感想】

最終的に全部いい結果になるというのを聞いて、特に高校生のうちはたくさん挑戦をし、失敗をし、いろんな経験をしたいと思った。そうして、過去を振り返った時に、後悔しない人生にしたいなと思った。また、自分で選択し、自分で行動できるように成長したいと思った。この聞き書きを通して、たくさん勉強できたし、自分に響く言葉をたくさん聞くことができた。他にない貴重な経験になった。



右：聞き手 河村 みのり
左：語り手 山田 江美さん